

大阪市立市岡東中学校

元気アップ便り

元気アップコーディネーター 千葉清二

こんにちは。明日は七夕様ですが、近畿地方はたいてい梅雨で、お星さまはなかなか見ることができないですね。今年は短冊の願い事には、「コロナが早く収まりますように」という短冊が増えるでしょうね。

さて、日本の社会や経済にとってうれしいニュースが先月ありました。それは「日本のスーパーコンピューターが8年ぶりに世界一の座に就いた」というものです。8年前に日本のスーパーコンピューター「京（けい）」が世界一の座をアメリカや中国に譲ってから、理化学研究所と富士通が1100億円かけて制作しました。その名は「富岳（ふがく）」といいます。富士山の別名ですね。演算の速さやビッグデータの処理性能やAI（人工知能）の学習性能など4部門で世界一となりました。どれくらい早い計算速度かといいますと、例えば世界中の70億人全員に電卓を持たせ、昼夜休まず2年間計算ドリルをやった計算量を「富岳」はたった1秒でやってしまいます。信じられないほどの速度ですね。しかし、当然ながら「富岳」の目的は速さが目的ではありません。「京」の目的と同様にあくまでも「世の中に役に立つこと」です。動物のチーターが陸上動物最速の時速100km以上で走れるといつても、動物園でのんびりしているだけでは、意味がないのと同じです。「富岳」と名付けられたのも富士山のように「高い性能をもち、裾野も広く、つまり世の中に広く役に立ちたい」として、名付けられました。本格的な運用は来年からですが、すでに新型コロナウイルスで、「飛沫がどのように広がるか」をシミュレーションすることで、成果をあげています。大量の物質から治療薬候補を見つけるという作業も実施していて、近く公表されるとも聞きます。世界中が一刻も早く治療薬を見つけようとしている中、成果がでるといいですね。そのほか、・健康長寿社会の実現・防災、環境問題・エネルギー問題・基礎科学の発展など人類が直面している様々な問題解決に臨んでいくと聞きます。日本の技術が世界に貢献できるのは、とても素晴らしいことですね。まさに技術立国日本の面目躍如ということでしょうか。

元気アップ学習会のお知らせ（3年対象）

3年生の皆さんには、この「元気アップだより」の前後に「元気アップ7月、および期末テスト対策の案内状」が配布されます。詳しい内容や日程は、それを見てほしいと思いますが、学習進度も早く内容も難しくなってきていますので、「少しでも力をつけよう」「学習内容を自分のものとして定着させよう」としている人はぜひ申し込んでください。